

令和7年度 前原西中学校区事業（前原西中・加布里小・前原小・東風小）

実践交流会職員研修 報告書

令和7年8月21日（木）14:00～15:30

講師：「ぼちぼちの会」会長 木村 素也

講演：「社会的自立に向けた不登校児童生徒および保護者に対する支援について」

令和7年8月21日（木）14時から糸島市立伊都文化会館多目的ルームで研修会が実施されました。前原西中校区（前原西中・加布里小・前原小・東風小）約140名の先生方が参加されました。講師は私「ぼちぼちの会」会長の木村素也でした。

14:00～15:15（75分）講演	15:15～15:25（10分）質疑応答
15:25～15:30 お礼の言葉	15:30 終了

前半の講演の中で、①不登校の現状と課題②不登校の何が問題か？③学校で困り感を持つ子どもに必要な対策は？④状況に応じた学びの場を考える⑤「学校の困り感」の原因は何⑥具体的な対応の例⑦保護者の支援について などについてお話をしました。

特に子どもたちは集団社会においていかにしたら「困り感」を少なくすることができるのかを学ぶ場こそ「学校」であり、自立のスキルを学ばせる場であることを強調しました。90分ほどの限られた時間ではありましたが、先生方もメモを取るなど熱心に研修を行われました。最後は質疑応答など日頃の悩みを出し合いながら助言などをさせていただきました。今後とも連携を取りながら、対応を取らせていただきたいと思います。これからもよろしくお願いします。



参加者の感想（抜粋）

「できることはする」「本人が決める」「できたことに目を向ける」「本人の自尊感情を低くしない」など大切なことを学ぶことができたからです。クラスに不登校の児童がいるので、私自身の学びを増やすことができ、良かったです。ありがとうございました。
まだ不登校の子がいたことはないですが、きっとこの講演を聞いていなかったら「学校おいでよ」と声をかけていたと思います。不登校の子がいたときは今日聞いた、できることはする。できないことは今はしない。という方針で支援していきたいなと思いました。
学校がすべき支援がはっきりと示された。
具体的な事例や経験談を元に、分かりやすい講演をして下さり、ありがとうございました。
現在の学校や教師の指導のあり方を見つめ直すことができる内容だった。
子どもたちに必要な教育的配慮は、自分ができることを自分で決めてもらい、それを受け止め支援することが大切であることがわかりました。
私は困り感がある生徒や不登校の生徒に対して〇〇ができるように頑張ろうと声を掛けていたが、その言葉が生徒からしたら嫌な場合もあることを学ぶことができた。生徒が大人になって社会に出た時に自立できるように自分の苦手なこと、してほしいことは自分で伝えることができるように今の段階からその力を育む必要があることが分かった。また、生徒自身にできることを伝えてもらうこと実際にできた達成感や周りの人からの褒め言葉が自己肯定感を高めるきっかけになることが分かった。これから生徒と向き合う時には今回学んだことを活かしていけると思ったのでとても良い講演会だった。
私自身も不登校児の対応で悩んでいるため、大変勉強になった。
受験を控えた不登校生への対応について大変わかりやすかった。
新しい視点を持つことができました。本人の意思を尊重できる教員になりたいです。
内容がとても興味深いものでした。ですが…それぞれ部会ごとにあつまるのであればオンライン開催でもよかったのでは。と思いました。
不登校についての概念が変わった。
不登校の子どもやその保護者に限らず、目の前の子ども・保護者と、どのように関わりを深めるか、その示唆を頂く事ができました。
不登校の生徒や親に向けての支援がわかった。やれる事から一緒にしていきたいと思います。
不登校への対応について考えることができました
不登校生徒とその保護者に対する支援方法を理解することができた。
不登校対応が分かった
豊富な経験に裏付けられた、わかりやすい例えとお話しでとても参考になった。
学級の子どもと合わせて聴かせていただき、夏休み後の声のかけ方や接し方についてのヒントとなりました。

学校に行かせるがゴールではなくて、何が大切か分かったので良かったです。
経験談があったのでよかった。
子供の支援はもちろん、保護者に寄り添うことが解決の1つだと学ぶことができたから。ただ、今は、できることにも制限がある中で自分にできることを明確にすることが難しかった。
市教委も不登校に対する捉え方は同じなのか気になりました。
私自身、やはり学校へ行くことが大事と言う考え方が強かったから、それが子どもを苦しい思わせていた。
自己肯定感の低い生徒を思い浮かべながらお話を聞くことができました。今は登校できているが心配な生徒がいるので、自分でできることを聞き取って、支援をしていきたいと思いました。
自分のクラスにまさしく、今年度不登校傾向の児童がおり、どのように声掛けしていこうかと思っていたところだったので、参考になった。
自分も同じことで悩んでいました。
他の学校の先生の話聞いた。
担任として不登校児童に関わるにあたって大切にすべき点がわかった。
長年のご経験をもとに具体例をお話いただき、大変参考になりました。
不登校に関して、考えを広めることが出来た。児童本人の自尊感情を低くしないような様々な手立てを知ることが出来た。
不登校の子どもに何かせねばと考えがちですが、自分で考えさせる視点をもたせることが大切と感じました。
不登校の子どもの背景をしっかりとらえ、子にも保護者にも必要な支援を行いたいと思います。
不登校の児童への対応の仕方などとても勉強になりました。寄り添って支援することをがんばりたいです。
不登校は何が問題なのか、新鮮な考えをお聞きすることができたからです。ただ、不登校にもさまざまなバックグラウンドがあるので、全てのパターンに合うかわわからないなど感じました。
不登校は特別な子どもの行動ではなく、誰でもおこるものであるため、できないことばかりに目を向けるのではなく、できることに目を向けた支援が大切だと学ぶことができました。ありがとうございました。
不登校への考え方が非常に良かった。しかし、希望制の研修でよいと思う。
不登校支援はこれまで学校生活に復帰させることを目標にしてしまっていたが、その子のできることに目を向けてモチベーションをもたせることが大切なことに気づかされた。
不登校児への支援が、具体化されていたから

不登校児童とその保護者に対する教師の心、考え方を学ぶことができました。
不登校児童についてどのように対応すれば良いのか分かった。
不登校児童に対して、自分が教師としてすべき行動やどういう考え方をするもよいか学ぶことができた。
不登校児童の対応やどんな対策をするべきかを考える方法がわかった気がしました。
不登校児童生徒のその後の様子まで聞くことができ、今後に活かしやすい内容だったから。
不登校生への対応がわかった
不登校生徒に対して、教師側でできることを設定するのではなくて、生徒ができることを決めるという考え方を知ることができました。
不登校生徒の対応がより分かったから。ただ、多く理解している内容ではあったので少し退屈に感じた。
不登校対応について、色々な対応を学ぶことができたから
保護者対応に関してとても有意義な話を聞くことができました。